

あけましておめでとうございます



尾道市は、近年は全国的には映画の舞台としてご存じの方も多いと思いますが、平安の時代より自然の良港を活かした風待ち・潮待ちの港として対明貿易船や北前船、内海航行船の寄港地として、中世・近世を通じて繁栄をとげ、各時代は豪商を生み、多くの神社仏閣の寄進造営が行われるなど、人・もの・財が集積したまちです。

尾道三山と尾道水道の間の限られた生活空間には多くの寺社や庭園、住宅があり、それらを結ぶ入り組んだ路地・坂道とともに、中世から近代の趣を今に残す箱庭的都市が生み出されました。迷路に迷い込んだかのような路地や、坂道を抜けた先に突如として広がる風景は、実に様々な顔を見せ、今も昔も多くの人を惹きつけてやまない、そういったまちとなっています。

歓迎のごあいさつ
第58回全日本花いっぱい尾道大会

実行委員会 会長 尾道市長 平谷 祐宏



このようなまちなみや歴史が評価され、平成27年度に文化庁が創設した『日本遺産』に、初年度は「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」が認定され、翌年28年には、瀬戸内の芸予諸島を中心に活躍し、日本最大の海賊と言わしめた村上

海賊の歴史遺産群のストーリーが認定され、2年連続での認定となりました。

さらに、本市には、広島県と愛媛県を結ぶ「瀬戸内しまなみ海道」や島根県松江市とを結ぶ「中国やまなみ街道」があり、南北軸の広島県側の起点として、また東西軸の山陽自動車道が交わる「瀬戸内の十字路」となっています。

特に、「瀬戸内しまなみ海道」は、日本で初めて自転車や人が歩いて海峡を横断することができ、橋であることが大きな特徴となっております。

ります。

瀬戸内の島々の景色を存分に味わうことができるサイクリングロードは、日本におけるサイクリングの聖地はもとより、アメリカCNNの世界七大サイクリングロードに選ばれており、サイクリング人気に拍車がかかっているところです。

このような中、本市は今年、市制施行120年の節目の年を迎えるとともに、第58回全日本花いっぱい尾道大会を開催します。

6月2日(土)・3日(日)の2日間、「ONE尾道」を開催コンセプトに関係各位のご協力のもと、尾道らしい精一杯のおもてなしをさせていただきますので、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市



浄土寺山からの展望



里山尾道ウォークinみつぎ

尾道市北部の山間部に位置する御調地域では、春には桜、秋には御調川河川敷に多くの彼岸花を見ることが出来ます。地域の人たちによる彼岸花球根の株分け等の活動によってその数は少しずつ増えており、毎年9月の秋分の日に実施される「里山尾道ウォークinみつぎ」では、10万本の彼岸花を見ながらウォーキングを楽しむことができ、尾道の里山の秋の風物詩となっています。

御調地域の彼岸花

さて、緑豊かな北部丘陵地域から独特の多島美の瀬戸内海地域を有する本市の花についてご紹介をします。



子どもたちとともに花植え

市内の道路わきにある花壇には、(一社)尾道市公衆衛生推進協議会の会員みなさんによって種から育てたマリゴールドや百日草、パンジーや葉ボタンなど季節にあった色とりどりの花苗が春と秋の年2回植えられています。道路わきを華やかに彩る花々は、通学する子どもたちを見守り、車を運転するドライバーの心を癒すなど、社会や地域を明るくすることに貢献しています。

(一社)尾道市 公衆衛生推進協議会 による花植え



向島洋らんセンターでの展示風景

向島では、昭和40年頃より温暖な瀬戸内海式気候を活かして市場性の高い洋らんの栽培が始まりました。島内の景勝地である国立公園高見山の麓に位置する向島洋らんセンターでは、大輪の胡蝶蘭が年中華麗な花を咲かせており、季節によってはシンビジウムやオンシジウムなどの洋らんも並んでいます。洋らんの販売だけでなく、栽培講習会や洋らん祭り、地元マルシェ等のイベントも随時開催されています。施設には多目的の芝生広場もあり、子どもから大人まで楽しめる施設となっています。

向島洋らんセンター



因島重井地区の除虫菊

除虫菊は、その名が示すとおり蚊取り線香の原料となる花で、かつては瀬戸内海を中心にたくさん生産されていました。因島では大正時代の初めごろから栽培が始まり、1960年代のピーク時には、日本一の生産量を誇るほど盛んで、島全体が真っ白に染まって見えたそうです。化学薬品の普及により栽培量は

減少しましたが、今では観光用に栽培され、花のシーズンには見物客が多く訪れています。毎年5月には、因島フラワーセンターで「除虫菊まつり」が開催され、因島の除虫菊を使った線香の手作りが体験できます。

因島の花「除虫菊」(和名:シロバナムシヨケギク)



除虫菊で作った線香



レモンの花

生口島の瀬戸田町は、広島県内でも有数の柑橘の産地です。特にレモンの生産量は日本一を誇り、皮まで食べられるレモンにこだわりをもって特別栽培されたレモン「せとだエコレモン」は、プレミアムな日本のトップブランドです。春、5月のはじめ頃から柑橘の花は咲き始め、島いっぱいに咲き誇り、島は花の香りに包まれていきます。柑橘の香りを楽しみながらのサイクリングやウォーキングは柑橘の島ならではの魅力となっています。

生口島の柑橘の花



名護市 花の里づくりの会「フラワーシティーなご」

沖縄県の北部に位置する名護市で、平成10年に花の里づくりの会を設立し「フラワーシティーなご」を県内外に広く知ってもらう為、名護市から受託し、年間250,000本の苗を生産し地域の花壇、職場の花壇等に配布して、ボランティアのメンバーが植栽・維持管理し、市民活動の拠点である地域や職場等で花の里づくりの活動の輪を拡げています。また、市内の全小中学校にプラグ苗・培養土・化学肥料を配布し各学校での育苗を支援し、若年層による花いっぱい運動の一端を担っています。

市内の色々な団体が年間を通じて開催する、四季折々の各イベントで



歓迎飾花を積極的に支援し、イベントごとに、市民はもとより、県内外より多くの来場者に、名護市とともに、花の里づくりの活動を啓蒙して「フラワーシティーなご」を推進しているところです。



第43号

発行日 平成30年1月
発行 全日本花いっぱい連盟事務局
長野県松本市中央1-18-11

TEL 0263-3213042
FAX 0263-3216511
Mウイング2F